

政務活動記録簿

会派名	東翔の会
事業名	会派視察(秋田県大潟村・〃横手市・岩手県和賀郡西和賀町)
実施日	平成30年7月23日～25日
参加議員	柳澤旨賢、青木周次、横山好範、佐藤千枝、田中信寿

1 東御市における課題と研修・調査の目的

- <大潟村>大規模な農業基盤整備による農業の実態調査
- <横手市>小中学生の学力向上に対する取り組みについて研修
- <西和賀町>第三セクターの「湯田牛乳公社」による地域活性について視察

2 経費

用途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
(該当項目に)	電車賃	JR新幹線代	156220
	飛行機代		
調査研究費	タクシー		
研修費	レンタカー	レンタカー36100、〃保険料1620	37720
広報費	ガソリン代	38.20	5768
広聴費	宿泊料	7/23=55500 7/24=59000	114500
	日当	2200×5人×3日	33000
要請・陳情活動費	資料代		
会議費	謝礼	1000×3か所(手土産)	3000
	参加負担金		
	高速料金		8220
	大潟村干拓博物館	ボランティア保険料	200
	草軽観光	旅行保険、企画料	6500
合計			365128

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

実施日時	平成30年7月23日(月)
視察場所及び部局等	大潟村役場(産業建設課)・大潟村干拓博物館・八郎潟干拓地
視察事項	大規模な農業基盤整備による農業の実態調査
報告内容	(1) 視察先概要 大潟村の全域は、日本で2番目の面積を誇る湖沼であった八郎潟を干拓して造った土地であり、干拓地として日本最大で、1964年(昭和39年)10月1日に発足。農家一戸あたりの水田面積は10ha、大型機械を導入して、住宅を1か所にまとめ、本格的な近代的大規模農業経営が本格的に行うモデル農村となった。現在も大規模経営による米作が村の基幹産業である。
	(2) 視察事項について 大潟村役場にて八郎潟干拓地の概要と、現在の農業施策、課題について説明を受ける。 その後、「大潟村干拓博物館」にて案内ボランティアより干拓の歴史や大潟村の成り立ち、入植時の状況を聞く。 また、現地を実際に視察し、地元耕作者より直接話を聞く。
	(3) 所感・市政に活かせること 東御市には無い大規模農業を目の当たりにし、改めて中山間地での農業の厳しさに気付かされたが、干拓初期の苦労や大変な状況を、第一次入植者の方から説明を受け、日本を代表する農村でも苦難の歴史がある事を知る事が出来た。市役所担当職員の方の「大潟村の農業は国の農業施策に振り回される戦いの連続」との言葉も印象深かった。



(視察先の写真等がある場合は添付)

実施日時	平成30年7月24日(火)
視察場所及び部局等	横手市役所(横手市教育委員会)
視察事項	横手市における小・中学生の学力向上の取り組みについて
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>横手市は、秋田県東南部に位置する市で、横手焼きそば、2月に行われるかまくらが全国的に有名。 2005年、旧横手市と平鹿郡に属していた全町村(増田町、平鹿町、雄物川町、大森町、十文字町、山内村、大雄村)が合併し、県内で唯一の人口10万を超える(現在は9万人台)など、県内第2の人口を有する都市となった。秋田県の施策にも沿いながら、学力向上に対する施策を推進し効果を上げている。</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>言語教育を中心に据えた、全ての教科に通じる、「生徒の読解力」の向上への取り組みについて。 生徒一人ひとりに寄り添った、きめ細やかな学習支援で学力向上に対し結果を出している取り組みについて。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>「考える力をつけたい」→「ことばを多く身に付ける必要がある」として、言語教育に新聞を活用したNIE教育を実施。また生徒一人ひとりの学力向上は家庭からと考え、横手市では家庭学習を小学1年生から始めており、ひとり一人に自学ノートを持たせて、家庭と連携を取っているとの事。教育の基本を大事にした横手市の施策は、東御市でも取り組むべきと感じる。</p> 

(視察先の写真等がある場合は添付)

実施日時	平成30年7月25日(水)
視察場所及び 部局等	西和賀町 湯田牛乳公社
視察事項	第三セクターの「湯田牛乳公社」による地域活性について視察
報 告 内 容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>1955年、湯田農協に「ミルク・プラント」が設立。その後、1966年、湯田町(現 西和賀町)・農協・酪農家・販売店の出資により株式会社湯田牛乳公社が設立された。一時経営の悪化で恒常的な赤字に陥るが、地域活性化を専門とするコンサルティングを招聘し、業務改革、意識改革により立て直しを図り、現在では高品質の乳製品を中心に、乳業メーカーの中でも独自の地位を築き、健全経営を続けている。また地元食材の加工品なども扱い、地域の農家のやる気を引き出し、地域活性化にもつなげている。</p>
	<p>(2) 視察事項について</p> <p>恒常的な赤字体質であった第三セクターを黒字化し、健全経営とした「湯田牛乳公社」の経営改善の取り組みについて。 地域食材を商品化し全国に売り出す地域活性化の取り組みについて。</p>
	<p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>赤字体質であった第三セクターの牛乳公社を、他社(特に大手メーカー)との差別化で、独自の地位を築き黒字化した事は、とかく税金投入に頼りやすい三セクの体質改善であり、「儲かって当たり前」「どうすれば利益が出るか常に考える」意識改革と、地域の食材を商品化し売り出し、地域活性化への貢献は大変参考になった。</p>



(視察先の写真等がある場合は添付)

政務活動記録簿

会派名	東翔の会
事業名	会派合同視察(東京都大田区「ICT教育」・〃 町田市「引きこもり対策」)
実施日	平成30年8月6日(月)～7日(火)
参加議員	柳澤旨賢、青木周次、横山好範、佐藤千枝、田中信寿

1 東御市における課題と研修・調査の目的

東御市でも課題となっているICT教育導入の取り組み、及び引きこもり対策について研修する。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
(該当項目に)	交通費	貸切バス、高速代	84,150
	飛行機代		
調査研究費	タクシー		
研修費	レンタカー		
広報費	ガソリン代		
広聴費	宿泊料	8月6日	59,500
	日当	2200×5人×2日	22,000
要請・陳情活動費	資料代		2,600
会議費	謝礼		
	参加負担金		
合計			168,250

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

実施日時	平成30年8月6日(月)
視察場所及び部局等	大田区役所
視察事項	ICT教育の取り組みについて
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>東御市と姉妹提携都市である東京都大田区の、先進的な小中学校ICT教育の取り組みについて研修する</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>大田区におけるICT教育の取り組みについて</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>情報通信技術(ICT)を使用した授業は、子どもたちの興味をひきつけたり、わかりやすさを高めたりすることが期待される。大田区では、全教室に電子黒板、タブレット端末を用意し、先進的なICT教育に取り組んでいる。東御市においても必要な取り組みであるが、教師、職員のICTへの理解や慣れ、誰でもが使いこなせる平準化が課題となりそうである。</p>



(視察先の写真等がある場合は添付)

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No.2)

実施日時	平成30年8月7日(火)
視察場所及び部局等	町田市役所
視察事項	引きこもり対策の取り組みについて
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>町田市は、東京都多摩地域南部に位置し、人口約43万人。1960年代以降ベッドタウンとして発達したが、依然市内各所で農業が行われている。市内には私立大学や一貫校が点在するなど、「青年の街」の特色も見られる。</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>近年深刻な課題となっている、若者の「引きこもり対策」の取り組みについて</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>近年深刻な課題となっている、若者の「引きこもり」への対策を町田市では、「就労」「福祉・居場所づくり」「教育」「保険医療」といった分野を横断的に連携させ、部局あるいは官民の機関を跨いで連絡・調整を図りながら、一人ひとりに合ったきめ細かな対策を講じている。また「引きこもり」の若者を抱える家庭に、専用の冊子を配布するなど対策強化を図っている。都会とは云えない東御市においても、「引きこもり」は最近課題となり始めているので、包括的な対策の構築を図る時が来ていると感じた。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

政務活動記録簿

会派名	東翔の会
事業名	会派合同視察(新潟県十日町「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」)
実施日	平成30年8月23日(木)
参加議員	柳澤旨賢、青木周次、横山好範、佐藤千枝、田中信寿

1 東御市における課題と研修・調査の目的

東御市で開催する「天空の芸術祭」の参考とするため。また「芸術による地域活性化」の成功事例を視察するため。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額(円)
(該当項目に)	交通費	貸切バス、高速代	35,110
	飛行機代		
調査研究費	タクシー		
研修費	レンタカー		
広報費	ガソリン代		
広聴費	宿泊料		
	日当	2200×5人	11,000
要請・陳情活動費	資料代		20,920
会議費	謝礼		
	参加負担金		
合計			67,030

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

実施日時	平成30年8月23日(木)
視察場所及び部局等	十日町役場及び町内芸術祭作品展示会場
視察事項	「2018越後妻有大地の芸術祭」及びそれを活用した地域活性化事例
報告内容	(1) 視察先概要
	十日町市は、新潟県の南部に位置する市で、市の中央を信濃川が流れ、日本有数の豪雪地帯として知られる。魚沼産コシヒカリの産地として、全域で稲作が広く行われている。 周辺町村(併せて妻有地方と呼ばれる)と連携し2000年から3年に1度開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は世界最大級の野外アート展として知られ、国内外から多くの来訪者がある。
	(2) 視察事項について
	「2018大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」及びそれを活用した地域活性化事例(過去作品を恒久展示した農家レストラン)
報告内容	(3) 所感・市政に活かせること
	開催された「2018大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、3年に一度のため予算も大きく、プロデュース、また出品の芸術家も著名人が参加している。当市の「天空の芸術祭」に規模や運営面での参考になる部分は少ないが、芸術祭への地域住民の参加(特に終了後の展示品を管理活用)について参考になる事が多かった。また、展示作品を常設展示し、店舗内に活用し古民家を再生した「農家レストラン」は人気で、地域観光活性化の切り口として新鮮な印象を持った。
	 

(視察先の写真等がある場合は添付)